

一牧師室から一

鳥原の普賢岳が噴火を始めて一年以上が経つが、一向に納まる気配はない。「火砕流」や「溶岩ドーム」などという聞き慣れぬ言葉も知らされた。テレビ報道を見ながら天災には勝てないが、地元の方々の苦勞と不安は如何ばかりかと思う。この地に日本基督教団の鳥原教会がある。町頭良行牧師が噴火後の昨年六月に鳥原教会に着任された。町頭牧師が、月刊誌「福音と世界」に「普賢岳の下で一宣教の共有をめざして」というタイトルで興味深いレポートを書いている。全国から物心両面の多くの援助が寄せられ、牧師は率直に感謝している。教会も支援し、色々なボランティア活動もなされている。しかし、町頭牧師はその

救援のあり方に疑問を投げかけている。それは「物」が地元の復興活動の足を引っぱっていることである。例えば、仮設住宅を作る場合、入札となれば効率のよい大手建設会社が落札し、地元の小さな建設会社や工務店は下請けになる。多量の物資が持ち込まれるがそれらは全て地元の流通機構を通さずに寄贈される。救援物資が地元の経済活動を打ちのめしている。更に、ボランティア活動も、見知らぬ人が来て苦勞して汗を流すよりも、田畑や、船や網、職場を失った被災者が現金収入と労働の意欲を持てるように、彼らに「換金できるボランティア切符」のようなものを送ってもらった方が良いと言われる。与える側の論理で進められ、受ける地元の要求が省みられてない。支援はあくまで自立を助けるものであろう。

「普賢岳の下」から人の営みを見た町頭牧師は、教団の各個主義的な宣教体制に痛烈な批判を浴びせている。「せめて同じ肢体であることの痛みを分かち合わぬところに主はいますぬ。」

週 報

1992年1月12日 降誕節第3主日

巻 12 41号

1991年度教会主題

「神の国は私たちの間にある」

聖句 ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。

ルカによる福音書 17章20節～21節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂を献げ、共に宣教に励む。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29
電話 045-833-5323、045-833-6616
振替 横浜 9-13994

牧師 秋 吉 隆 雄